

「非抜歯症例における保定後の変化 — 小臼歯抜歯による再治療から考える —

愛媛県新居浜市開業 歯ならび矯正歯科医院 和島武毅

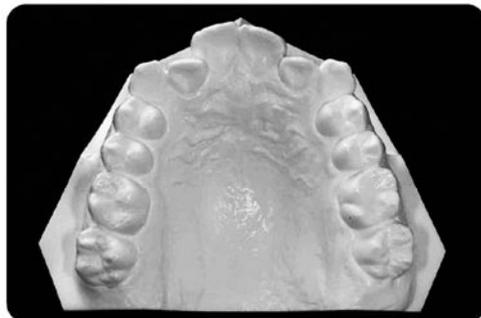
矯正治療を行う際の抜歯、非抜歯の判断は、治療方針の決定に対して非常に重要なポイントになる。またその結果は、治療手順、治療期間、硬組織、軟組織への影響など広範囲に及ぶ。抜歯、非抜歯の判断や治療方針の立案が重要であるが故に様々なスタディグループで様々な臨床研究が行われている。しかしながら、実際の臨床で分析値などの基準を判断材料にすることもあるが、術者の経験的な判断を主体として抜歯、非抜歯を決定することが常である。

一方、患者さんの要望も多様化することにより小臼歯非抜歯治療が商業化し、今に始まったことではないが、巷には様々な情報が氾濫し惨憺たる状況となっている。今回、小臼歯非抜歯にて治療を行った症例を小臼歯抜歯により再治療を行った症例を供覧して頂き、保定後の変化について検討したいと思う。

●初診時 NAME N.K. AGE 9Y10M
DATE'98-6-27



●再治療開始時 NAME N.K. AGE 16Y6M
DATE'05-3-25



【略歴】

和島 武毅 (わじま・たけひこ)

医療法人歯顎会 歯ならび矯正歯科医院 院長

1967年生まれ

1991年 3月 日本歯科大学新潟歯学部卒業

1995年 3月 日本歯科大学新潟歯学部歯科矯正学大学院卒業

1997年10月 歯ならび矯正歯科医院 開設

2000年 2月 医療法人 歯顎会開設

2002年 7月 ハッピー矯正歯科開設

2004年12月 日本歯科矯正専門医認定医機構 認定歯科矯正専門医取得

現在に至る